

## 小学校 の事例



# 早期発見・支援の大切さ

～あなたの周りには頼ってもよい大人がいるよ～

—大阪府教育庁のSSWSV（スクールソーシャルワーカースーパーバイザー）の松本真奈美さんにお聞きしました—

### 一関わった世帯の状況



Aさん：小学4年生の女儿。妹の体調不良時のお世話や母の通院の付き添いで学校を休むことが多くなっている。

家族：母と妹（小学2年生。特別支援学級在籍）。生活保護世帯。

母は精神的に不安定な状態で、家事や育児、妹の登下校の送迎に負担を感じている。

### 一支援のきっかけは？

この学校では特別支援学級の児童は親が送迎をすることになっています。

毎日の送迎時に母の元気がないことに気づいた担任が管理職に報告し、その後私（当時はSSW）に相談がありました。

そこで、姉妹の担任や管理職を含めた校内会議を開催し、Aさんが休みがちで提出物なども時々遅れることや家庭環境、母の様子などを共有しました。Aさんが母と妹の世話をしている可能性があり、ヤングケアラー状態になっている若しくはなる可能性があると考え、支援がスタートしました。

### 一どのような支援をされたのでしょうか？

福祉サービスの利用に対する抵抗感が強いご世帯だったので、福祉サービスに慣れていただくことから始めました。

その提案も、SSWからではなく、母と関係性が築けている妹の担任から伝えてもらいました。

さらに、市の家庭児童相談室とも相談したうえで、子ども食堂の弁当配達やフードバンクの食材配付などを紹介し、少しずつ福祉サービスに慣れてもらいました。



### 一工夫されたことはありますか？

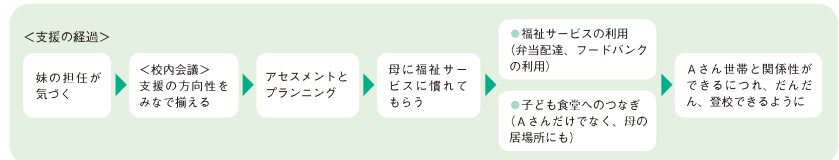
誰から母にお伝えしたら福祉サービスの利用を受け入れてもらえるか、校内会議で考えました。その結果、信頼関係のできている妹の担任から伝えることにしたところ、少しずつ支援を受け入れていただけるようになりました。

また、母の負担を少しでも軽減するため、同じ内容の連絡はAさんと妹のどちらかの担任からまとめて連絡するなど連携してもらったことも工夫のひとつです。

私も母と話ができる関係になりかけたので、学校でお見かけすれば必ず声をかけ、担任から母に福祉サービスについて説明するときも「SSWさんから教えてもらったよ」と付け加えてもらうようにして、「学校にはSSWという信頼できる専門家がいるよ」ということを認識してもらえるようにしました。

とは言え、母とはまだ話ができる関係にはなっていないので、引き続き担任に福祉サービスの情報提供を行うなどバックアップするとともに、さらには、様々な視点から見守りができるような市の要対協や生活保護課などとも連絡を密に取るようにしました。

工夫ではないのですが、私は中学校区に配置されたSSWだったので、Aさんが小学校を卒業して中学校に進学しても、引き続き、Aさんのご世帯を見守り続けられることもよかったですと思います。

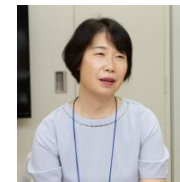
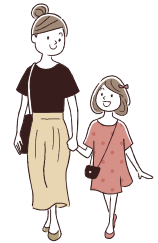


### 一支援が始まった後のご世帯の様子を教えてください

福祉サービスを受けることで、母の体調がよくなっていきました。また、妹の担任をはじめ学校との信頼関係ができたことで、学校に対する気持ちの変化を感じました。以前は子どもたちが登校しないときに電話をしても連絡がとれないことがありましたが、今は、電話にも出てくれますし、学校の行事にも参加されています。

母の体調回復に伴い、子どもたちも徐々に登校できるようになってきました。今は、二人とも週3回ほど登校できているようです。

Aさんについては、登校した際にクラスに馴染めるよう担任をはじめ学級全体で声かけなどのサポートも行っており、Aさんの表情がとて明るくなりました。



### 一ご世帯に関わって感じたことを教えてください

あのまま気づいていなければ、Aさんはヤングケアラー状態になり、学校に来れなくなっていたかもしれません。少しでも早い時期に見つけ、支援体制をとることで、ご世帯の困りごとに対応できると思うんです。また、周りの大人に頼ってもいいんだよ、という子どもたちへのメッセージにもなります。

逆に、支援が遅れば、子ども自身が自分の将来をあきらめてしまうことにもつながりかねません。今回は、学校側の気づきが早く、「チーム学校」で取り組めた事例だと思います。

これからも引き続き、「あなたの周りには頼ってもよい大人がいるよ」と伝えていきたいと思っています。

本書の監修を務める一般社団法人 こもれびの水流添 綾です。  
各事例の右下のコラム欄で支援のポイントや知っていただきたいなどを記載していきます。  
最初に、本書に掲載の5つの支援事例に共通していたことをお伝えしたいと思います。

#### ★共通していたこと★

- ケース会議などでアセスメントとプランニング、役割分担をする
- 相手の意向を確認し尊重する
- 信頼関係のある人からアプローチをする

支援に取り組む際には、この3つのことを大切にしてくださいと思います。  
この3つのことについて、コラム1でもう少し詳しくお話しします。



## アセスメントとプランニング

コラム1

本書では、先に述べたように、どの事例でも、校内会議、カンファレンスなど名前は違えど、関係者が集まってケース会議を開いていました。そこでは情報を持ち寄り共有するだけでなく、アセスメント（見立て）をして、どのような支援や方向性が考えられるか検討し、プランニングをしています。

また、誰からのアプローチであれば、本人やご世帯が受け入れやすいかを検討しています。

プランニングの際に大切なことは、本人やご世帯の意向を尊重し、確認したうえで、信頼関係のある方から伝えることです。初めて会う人から「こんな支援が受けられますよ」と言われても、不安を感じてなかなか受け入れたいことがあると思います。また、信頼関係のある方から支援プランを提案する際も、相手の状況に応じて話を進めることが大切です。

支援をする中でご本人やご世帯の意向が変わることもありますが、意向に沿った支援でなければ、支援の押し付けになり、うまくいきません。本人やご世帯の意向をその都度確認をする丁寧な関わりが、次の支援につながっていきます。

次の、中学校の事例でSSWが「あなたにも『なんとかなりたい』『がんばりたい』という気持ちがある」とおっしゃっていますがそのとおりで、ご本人やご世帯の力を信じて支援をしたいものです。